

## 地域経済学

-----以下、シラバス記載内容-----

ニュースや新聞において、東京一極集中や大阪の地盤沈下、そして、最近では、地域間経済格差について語られるのを度々目にする。こうした現象がなぜ生じるかを体系だてて考えるのが地域経済学である。この講義では、地域経済についての分析手法の基礎を説明する。特に、人・もの・サービスの移動の裏にあるメカニズムを理解し、その現象を評価する手法について解説する。

経済学の枠組みの中で、地域経済について分析するために考えられてきた手法の基礎を身に付けることを目的とする。合わせて、最近のデータを概観することで、それらの手法をどのように使って現実を見ればよいのか理解することを目標とする。

まず、地域経済学で用いられる基本概念を紹介する。それらの概念と照らし合わせながら、実際の日本のデータを概観し、何を分析する必要があるのかを説明する。その後、基本的な分析の枠組みを提示し、それを用いた分析例を紹介していく。講義の半分程度は教科書に沿って進めるが、必要に応じて順序を変更したり、他の文献を参照する。

1. 地域経済学の基礎概念
2. 日本の地域
3. 地域経済計算と成長モデル
4. 交易
5. 人口移動
6. 産業立地
7. 都市システム
8. 都市内住宅立地
9. 交通
10. 地方政府の役割

成績判定基準      レポート（50%）および試験（50%）

教科書：

山田浩之・徳岡一幸 編 「地域経済学入門」 有斐閣コンパクト （2007）。

参考文献：

佐々木公明・文世一 著 「都市経済学の基礎」 有斐閣コンパクト （2000）。

黒田達朗・中村良平・田淵隆俊 著 「都市と地域の経済学」 有斐閣ブックス (1996)。

金本良嗣 著 「都市経済学」 東洋経済 (1997)。 その他は適宜指示する。

注意・要望事項 ミクロ・マクロ経済学および初級の微分積分の知識は前提として講義を進めます。不安のある方は自分で学習しておいてください。また、必ず講義内容を復習して、必要に応じてミクロ経済学やマクロ経済学などの知識を補っておいてください。

-----ここまで-----

## 経済学について

### 1. 経済学とは?・・・共同体に関する学問・・・社会科学

### 2. 分野紹介

#### 【基礎分野】

ミクロ経済学・・・個人の行動から出発

西村和雄 著 「ミクロ経済学入門」 岩波書店

マクロ経済学・・・集計量の経験則から出発

中谷 巖 著 「入門マクロ経済学」 日本評論社

計量経済学・・・データによる確認

山本 拓 著 「計量経済学」 新世社

#### 【応用分野】

金融論 岩田一政 著 「現代金融論」 日本評論社

財政学 井堀利宏 著 「財政学」 新世社

公共経済学 常木 淳 著 「公共経済学」 新世社

労働経済学 中馬宏之・樋口美雄 著 「労働経済学」 岩波書店

国際経済学 伊藤元重 著 「ゼミナール国際経済入門」 日本経済新聞社

都市経済学 宮尾尊弘 著 「現代都市経済学」 日本評論社

開発経済学 渡辺利夫 著 「開発経済学」 日本評論社

環境経済学 植田和弘 著 「環境経済学」 岩波書店

経済数学 三土修平 著 「初歩からの経済数学」 日本評論社

### 3. 全ての基礎ミクロ経済学

#### 【ミクロ経済学の目的】

①誰が、何を、どうやってつくるか・・・生産

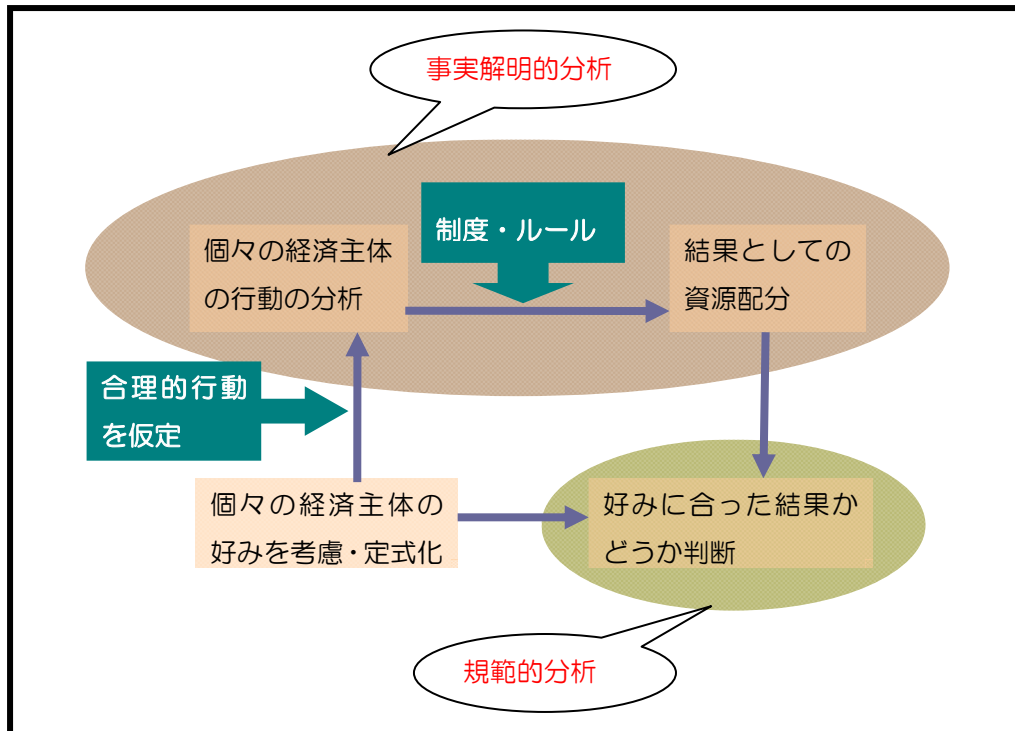
②誰が、何を、どのくらいもらうか・・・分配

①、②の資源配分問題を扱うのがミクロ経済学

社会は資源配分を決めるルールや制度を持つ。しかし、それが最良であるとは限らないため。

### 【ミクロ経済学の方法】

個々の経済主体が何を考え、何をするかを詳しく考察する



### 【好みの定式化】

好き嫌いとお用関数⇒初等数学

### 【価格理論とゲーム理論】

#### 【価格理論】

零細な経済主体の分析・・・プライステイカーの仮定（価格を所与として行動）

#### ① 消費者理論

物の価格と自分の労働力および資産の価格を所与として行動。

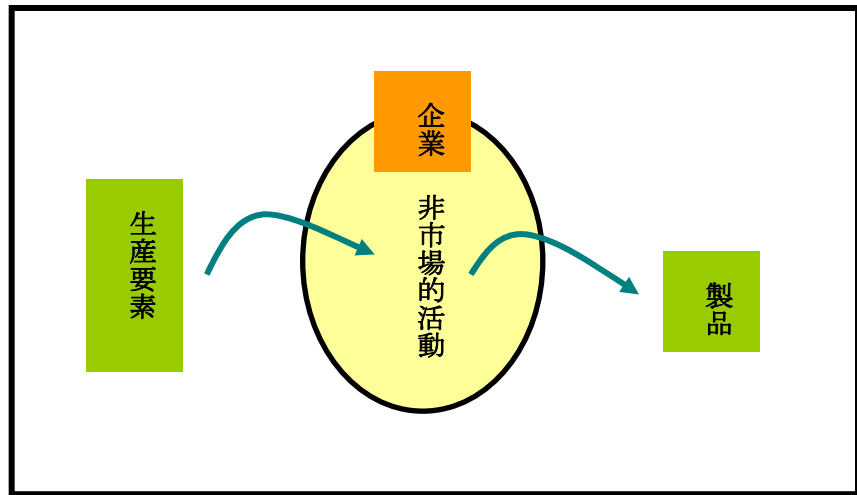
例：物の価格×買う量を全て足し合わせれば使う額が決まる。

「使う額 ≤ 所得 = 賃金 × 労働量 + 資産価格 × 資産保有量」

でなければならない。この制約の下で、効用関数の値を最大にするように（もっとも好きな状態を達成するように）行動する。労働量や資産保有量を一定と考えて解けばそれらの下でどれだけものを買うかを考えることができる。⇒需要の導出。

## ② 企業と生産の理論

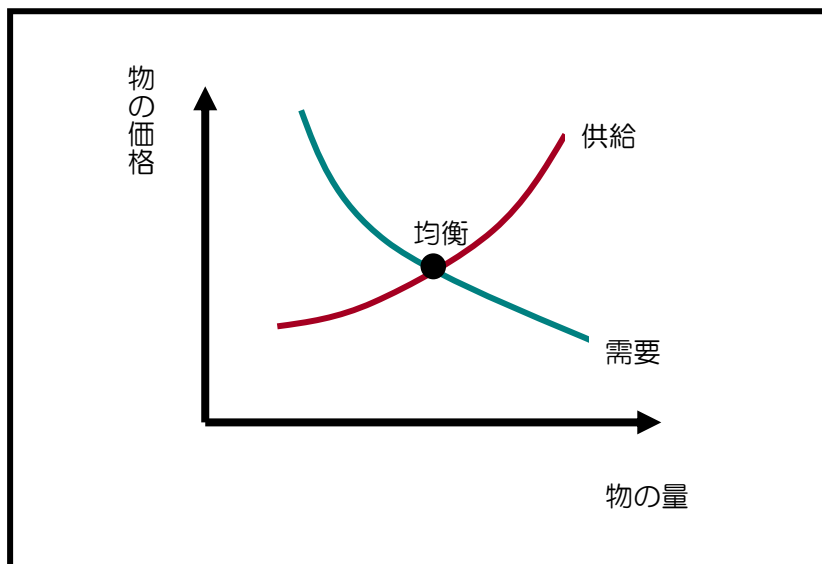
価格理論では、企業を



のようにとらえ、非市場的活動を無視する。(そこはゲーム理論で詳しく分析)

企業は「利潤=売り上げ-費用」を最大にするように行動する。⇒供給の導出

③ 消費者と企業一度に考える⇒均衡・・・消費者は効用最大化し、企業は利潤最大化している。それらの行動が整合的な状態=買えない人、売れない企業がない状態。



こうしたフレームワークに税金や年金、補助金などの様々な要素を加えて分析する。

⇒政策的インプリケーション。(どうなるか、それがよいのか。)

### 【ゲーム理論】

市場（価格）に影響力を持つ経済主体を考える。

企業内部を考える。

個人的な関係を考える。

自分だけが行動を変えても得をしない状態をナッシュ均衡と呼び、その状態に注目する。

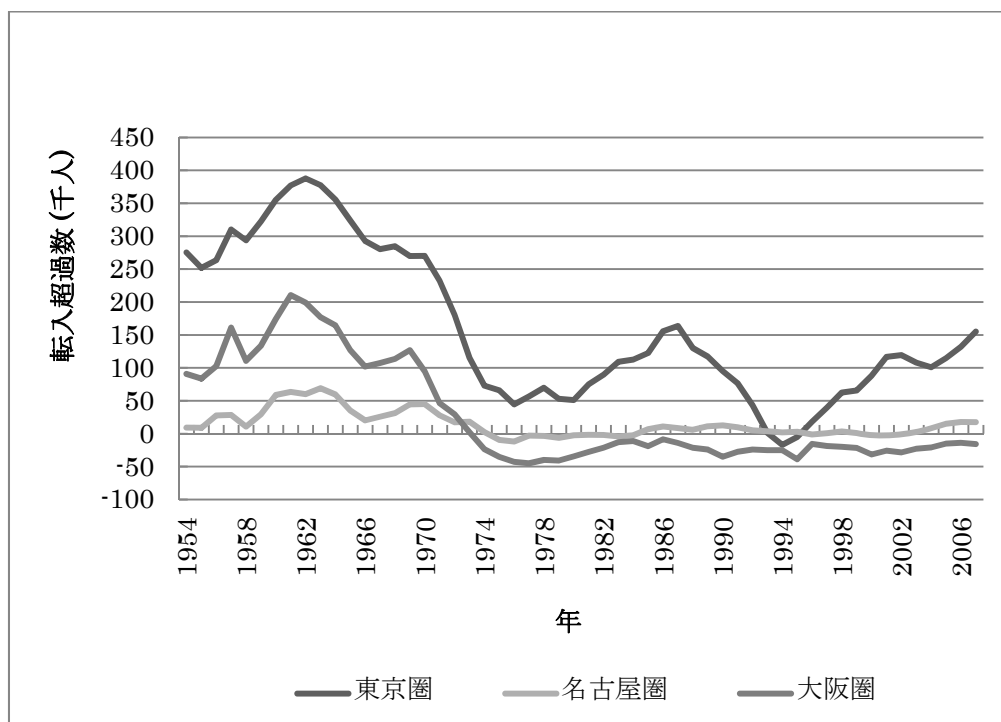
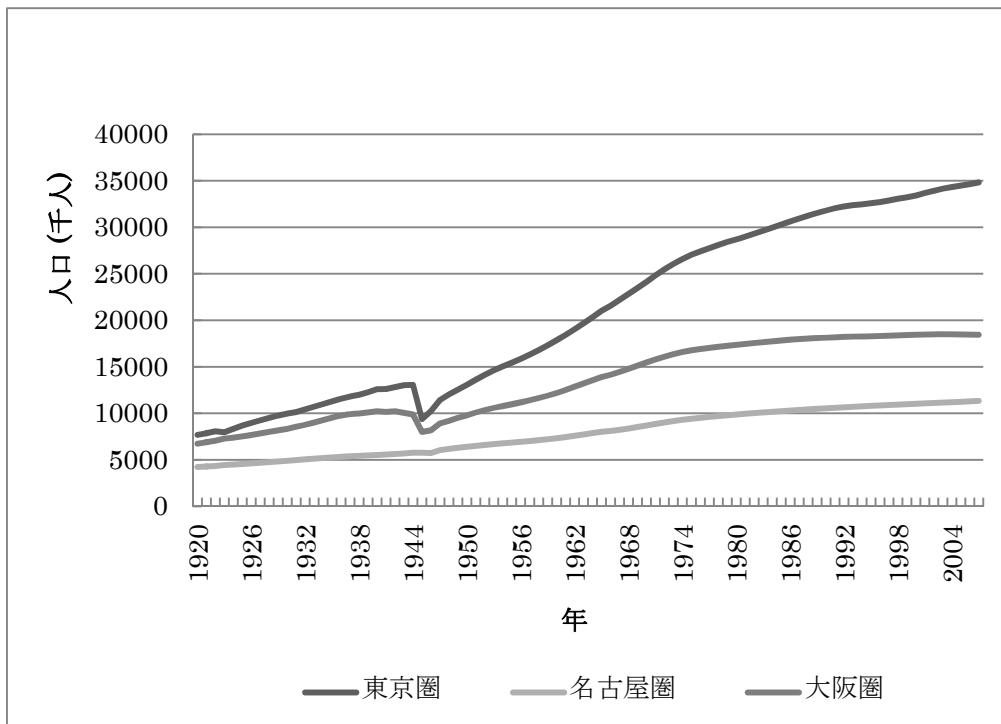
例：立地競争、賃金交渉、生産量競争、価格競争、天然資源利用、オークション、シグナリング

## 経済学の中の応用分野としての地域経済学（都市経済学、空間経済学）

2000年には、東京都、大阪府、愛知県の可住地面積を合計しても全国の可住地面積の5%にも満たないが、この三県の人口の合計は日本の人口の20%を超え、また、三県の実質県内総生産の合計は全国のその30%を超えている。

→経済主体・経済活動の極度の集中

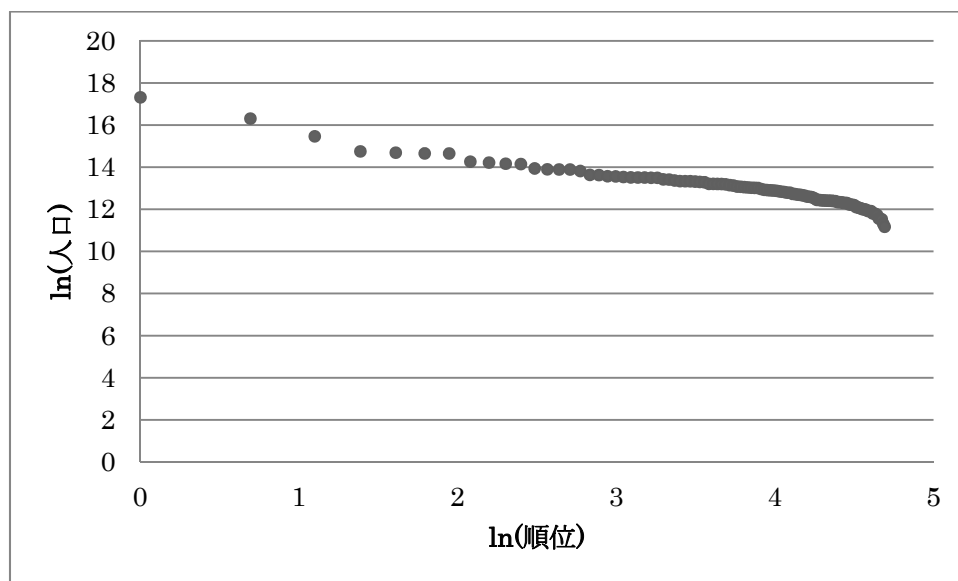
三大都市圏の人口、および転入超過数（東京圏=東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県、大阪圏=大阪府・京都府・兵庫県・奈良県、名古屋圏=愛知県・岐阜県・三重県）[出典：総務省統計局・国勢調査および人口移動基本台帳より作成]



大都市雇用圏(MEA: Major Employment Area)でみた都市圏人口: MEA=通勤・通学パターンから都市圏を定義したもの

[出典: 東京大学空間情報科学研究センターのweb page。http://www.urban.e.u-tokyo.ac.jp/UEA/]

順位	MEA	人口(万人)	順位	MEA	人口(万人)
1	東京	3334	6	札幌・小樽	232
2	大阪	1215	7	神戸	231
3	名古屋・小牧	523	8	仙台	157
4	京都	256	9	岡山	150
5	福岡	240	10	広島	150



このように経済主体や経済活動が特定の地域・都市になぜ偏るのか、また、その結果何が生じるのかを経済学の立場から詳しく分析するのが地域経済学である。